



# NEWS

2010 No.226

1月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

## 平成22年 理事長年頭所感

# お客様第一! & 高品質の徹底と 新たなニーズの掘り起こしで 皆様の要望に応えるNGPを目指します



明けましておめでとうございます。

平成22年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は「リーマンショック」の影響による世界同時不況で幕を開け、景気が回復方向へ転じようとした瞬間に円高が加速し、私たち中小・零細の事業者にとりまして日本経済の停滞感がいっそう強まった1年でした。一方、政界に目を転じてみれば、50年ぶりに選挙による政権交代が行われ、自民党が野に下り、民主党を主体とする新政権が発足しました。しかし新政権への期待とは裏腹に経済が活性化しないどころか、グローバル化した日本経済の難しさで、日本は景気悪化と物価下落が同時に進むデフレ状況に直面しています。

自動車産業も同様です。昨年は、登録車販売が292万台あまりと38年ぶりに300万台を割り込み、軽自動車も169万台と低迷したことで合計461万台、年初の予測を大きく下回りました。昨年開催された第41回東京モーターショーも海外メーカーの発展がなく、経費の節減で期間を短縮したこともあいまって、来場者は前回は81万人下回る61万4千人にとどまりました。日本自動車工業会の予測によりますと、今年の新車販売は約480万台弱と6年ぶりにプラスに転じる見込みです。しかし、伸び悩み家庭収入やCO<sub>2</sub>排出削減にともなうライフスタイルの変化で、自動車離れがさらに進みはしないかなど、不安の種は尽きません。

こうした厳しい経済状況下で唯一の光明を見いだすとすれば、自動車リサイクル部品が自動車修理時のCO<sub>2</sub>排出削減に有効なツールであるということです。NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は、昨年3月

に業界に先がけてリサイクル部品物流にリターナブル梱包材を使用し、整備事業者の皆様にご理解をいただきながらエコな商品をご提供をさらにエコにする方法でお届けすることへのチャレンジを始めました。地球温暖化防止への関心は高く、さらにバンパーやエンジンへとこの活動を広げて行きたいと考えております。

さらにこの1年、整備事業の皆様へ選ばれるよう「よりよい商品を!より正確に!より早く!」のモットーに磨きをかけて行くために、NGP協同組合は3点の取り組みを進めてまいります。

ひとつは、整備工場の皆様にとって使いやすいリサイクル部品は何かという視点で今一度、NGP協同組合の商品作りを見直し、お客様皆様のニーズに即した商品作りに努力してまいります。

2つ目はクレーム情報の一元管理を進めて事前防止対策を徹底します。部品装着の不具合は電子化にともなう自動車側の問題もあるため、クレーム情報の集約管理を徹底することで、NGP協同組合のフロントマンを通じて修理・整備作業にお役に立てる情報が提供できるものと考えております。

そして3つ目はインターネットを通じて整備事業の皆様にお客様を紹介する仕組みを整えていくことです。「エコメンテクラブ」(仮称)という名称でリサイクル部品が修理をしたいお客様と修理工場の皆様を結び仕組みづくりを行い、少しでも修理需要を掘り起こして皆様のお役に立ちたいと考えております。

前提となる「品質」につきましてはNGP協同組合内部の研修活動等を通じて徹底してまいります。とくにハイブリッド車に代表される自動車の電気化・電子化は今後加速度



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合  
理事長 大橋岳彦

的に進むものと考えておりました。今年には作業の安全性確保と専門知識の育成のために、これまで取り組んできたハイブリッド研修を徹底いたします。時代に合った商品提供を実現することにもなるでしょう。

どうか整備工場の皆様におかれましては、率直なご意見をお聞かせください。自動車アフターマーケットの市場環境は厳しさを増す一方で、これを乗り越えるためにさまざまな努力や工夫を行っていると感じます。NGP協同組合の商品作りにもこうしたお客様の声を反映し、ともすれば見逃しているニーズに応える商品提供を進めてまいります。ご意見を伺う機会も設けたいと考えております。

今年1年、関係各位のご指導、ご鞭撻を切にお願いするとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年の挨拶といたします。

## エコプロダクツ 2009

# 国内最大級の環境展示会に18万人が来場 エコ・ユーザーの育成も企業の社会的責任のうち

国内最大級の環境展示会「エコプロダクツ2009」が12月10～12日の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開かれました。会期中の来場者は18万2510人、環境問題への関心の高まりとともに毎年記録更新しています。CO<sub>2</sub>排出削減に役立つ自動車リサイクル部品を供給するNGP協同組合も4年連続で単独出展し、リサイクル部品の利用促進を来場者に呼びかけました。

エコプロダクツに限らず環境関連の各種イベントはいずれも盛況です。地球温暖化防止、CO<sub>2</sub>排出削減について社会的関心は高く、エコ関連商品がビジネスチャンスを広げるといって、業種を問わず大企業から中小・零細企業に至るまでPRに余念がありません。

ただし、自動車メーカーの展示はエコカーに集約されているのが悩ましい。トヨタ自動車は、新型ハイブリッドセダン「SAI(サイ)」とエコプロ直後にリース販売が始まった「プリウス・プラグインハイブリッド」を展示、日産自動車は今年発売が予定される電気自動車「リーフ」といったモーターショーなどで展示された車両を並べていました。先行して発売



23.4kmをEV走行する「プリウス・プラグインハイブリッド」、トータル燃費はリッター57km

した三菱自動車「アイ・ミーブ」、富士重工業「プラグインステラ」の電気自動車の展示もありました。

華やかだったのは電機メーカーの展示です。クリーンエネルギーということで、シャープは「グローバル・グリーン・チャレンジ」で優勝した東海大学チームのソーラーカーを展示、京セラブースには太陽電池をルーフに搭載した「プリウス」が展示されていました。

さらには「コミュニティサイクル」といった名目で社会実験が始まっている自転車に関連して、電動アシスト付自転車の管理システムの展示がありました。このシステムは北九州市黒崎地区で通勤・通学の社会実験や埼玉



東海大学チームのソーラーカー。クリーンエネルギーを生む太陽電池はシャープが供給



電動アシスト付自転車の管理システム「F-rents(フレント)」。脱自動車の社会実験が始まっている

県熊谷市の大手工場で通勤用に使われ始めているということです。地方都市では車は必需品といわれますが、CO<sub>2</sub>の排出削減のために少しずつ電動アシスト付自転車のようなクリーンな交通手段に置き換えていこうという実験が進んでいます。

こうした社会情勢の中でエコカーだけでは、自動車関連産業としてパンチ力不足ではないでしょうか。タイヤメーカーがエコタイヤの展示を行っていました。同様に今、使われている自動車を少しでも環境により良いものにする、そのためにきちんとしたデータを添えてエコ関連の商品を提供するなどして、自動車のアフターマーケットで「エコ・ユーザー」を育てる努力が関連業界に求められてきているようです。

## NGP協同組合、エコプロに4年連続で単独出展

NGP協同組合は「エコプロダクツ2009」に出展し、自動車リサイクルと修理時のCO<sub>2</sub>排出削減につながる自動車リサイクル部品のPRに努めました。06年以降4年連続の出展になります。昨年同様、リサイクル部品で七色に仕上げた日産「マーチ」のリムジンを展示するとともにリサイクル博士が登場して、子供たちにもよくわかるように紙芝居を使って自動車リサイクルを説明しました。さらにリターンブル梱包材も展示し、NGP協同組合がCO<sub>2</sub>排出削減につながるリサイクル部品をさらにエコにすることに取り組んでいることも紹介しました。

昨年までクイズ用紙を用意していましたが、今年は環境に配慮してビニールでパウチング、マーカーで書き込み繰り返し使えるよう工夫しましたところ、来場者からも感心されました。リサイクル部品がCO<sub>2</sub>削減につながることを理解してもらうために、「リサイ

クル部品を使ったときの削減効果が大きいものは何か」との設問をクイズで行っています。

正解は「エンジン」なのですが、ブースには「くるくるリサイクル盤」の模型を展示して遊びながらクイズの答えとリサイクル部品の効用を理解してもらうようにしました。実際の「くるくるリサイクル盤」はペーパークラフトで、修理工場店頭などにも配置できるようになっています。リサイクル部品のCO<sub>2</sub>削減



今年も登場したリサイクル博士。子供も、保護者も分かりやすさに納得

数値を知ってもらうことはエコ・ユーザーを育てることにつながります。ぜひご利用ください。

NGP協同組合

は引き続きエコプロダクツに出展し、リサイクル部品の普及・啓もうに努めます。



実物はペーパークラフト。まわすと部品ごとのCO<sub>2</sub>削減効果が一目瞭然のリサイクル盤



何人乗れるのか、子供たちも七色のリムジンに興味津々

NGP 協同組合の活動を支える実動部隊！

今期の委員会委員長紹介

	氏名	会社名/役職	抱負
総務広報委員長	 杉之間 大和 S45年8月	(株)杉之間 代表取締役	引き続きエコプロダクツとIAAEに出展し、リサイクル部品の認知度向上を図ります。リターナブル梱包材の対象アイテム拡大に合わせて、他グループに利用を広げるためのPRも進めます。組合員向けの新媒体「組合トレンド」を通じて、組織内部の討論を活発にしたいと考えています。
システム委員長	 浜田 誠道 S31年12月	ラップス 代表	今期はNGPシステムの入れ替え時期に入ります。これを機にシステム全体の抜本的な見直しを行い、迅速な回答・的確な商品紹介等、更なる「お客様第一」を実践できるシステム構築を目指します。
車両流通委員長	 寺田 博正 S51年10月	(株)テラダパーツ 代表取締役	お客様にリサイクル部品を供給する上で、部品取り車両の収集拡大は事業の根幹であり、重要なテーマです。今期は損保・リース会社への対応強化と「くるマック」活動の継続実施に取り組み、良質な部品取り車両の収集拡大を目指し活動してまいります。
組織戦略委員長	 佃 正人 S47年1月	(有)ツクダ自動車 代表取締役	組織委員会に「戦略」が加わり、今期より、組織戦略委員会となりました。今までの組織の仕事に加え、NGP 組合員全てがより強く結束し、「NGP っ ていいなあ」と思われるよう戦略を立案してまいります。
教育委員長	 岩井 悟朗 S47年3月	オートパーツ・ イワイ 代表取締役	例年通りの研修開催はもちろんのこと、新規の研修会の開発や、ハイブリッドカーセミナーの全社受講を目標に活動していきます。教育委員会は、これからも熱き魂のこもった研修会を開催していきます！
指導委員長	 近藤 啓継 S50年9月	(有)カーパーツ コンドウ 取締役専務	前期の反省点を踏まえ、今期はモラル向上・技術力向上・コンプライアンス厳守を柱にして、生産・フロント会議や初級研修会を行うとともに、生産管理者の研修を行います。全てにおいて向上できるよう、また NGP の品質を落とすことのないよう積極的に指導していきます。
環境委員長	 藤原 庸正 S44年3月	(株)福山セコ 代表取締役	エコプロダクツの出展や環境報告書作成を通じて、NGP の活動を PR します。同時に NGP 協同組合内部でも「環境大賞」(仮称)を作り、組合員のエコ活動を表彰したいと考えています。地元環境展などに独自に出展して情報発信をしている組合員を励ましていきます。
商品管理委員長	 上田 秀徳 S35年7月	(有)プロス 代表取締役	あらゆる調査・分析及び指導、クレーム報告書の電子化及び情報共有の一元管理・運営、CP 画像計測システムの構築、ECO 物流梱包資材の開発・推進、と課題は山積みですが、NGP ブランド保持に向けて全力で取り組んでいきます。

NGP 今月のCO2削減量

NGP平成21年11月: **7,473t** (全12団体計: **12,891t**)

1月からの累計: **83,901t** (全12団体計: **150,882t**)

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



あいおい・ニッセイ同和、日刊自動車新聞共催

## 自整業経営強化セミナーにNGP協同組合が協賛



挨拶するあいおい損害保険(株)永末裕明・代表取締役専務、未来を目指して受講者も真剣

あいおい損害保険とニッセイ同和損害保険、日刊自動車新聞社が共催する「自動車整備業者様向け経営強化セミナー」が11月26日、東京都渋谷区のあいおい損保新宿ホールで開かれました。NGP協同組合はこのセミナーに協賛しています。

セミナーは「お客さまに愛され、未来に残る企業を目指して」がテーマでした。講

師のひとりで、自動車販売に関する著書もあるフロントオフィスの野崎英直代表は『勝ち残りのキーワード—クレーム対応が顧客つなぎ止めの鍵』と題した講演で、既存顧客と管理車両を大切にすることの重要性を説きました。また、総合人材サービスを手掛けるメインの山尾百合子代表からは『おもてなしの時代、マナーをマネーに』をテーマに、新規顧客の取り込み方や女性客が魅力を感じる店舗事例の紹介などの話を聞きました。

セミナーの参加者は200人ほど。これまで整備事業者がウエートをかけていた車検整備は厳しい競争が続いているだけに事業継続のヒントを見つけようと、参加者は熱心に聞き入っていました。

NGP協同組合はこのセミナーに協賛し、リサイクル部品の活用で二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の削減数値をわかりやすく説明するツール「くるくるリサイクル盤」などを配布しました。これは、サービスフロントや待合室などに置いていただくことで、お客さまにわかり

やすくリサイクル部品によるCO<sub>2</sub>削減効果を説明することができます。また、整備を行う上での環境貢献を伝えることができますので、整備工場様とお客様との信頼関係をより高めることも可能なツールです。NGP協同組合は、高品質なりサイクル部品の提供とともに今後もさまざまな支援ツールを作成し、整備工場のリサイクル部品利用をサポートしていきます。



店頭で置ける「くるくるリサイクル盤」(左)と取り扱いを示す三角スタンド(右)などの支援ツールを製作、配布した

## 大石名誉顧問を訪ね、理事若返りや総会事項を報告

大橋岳彦理事長と永田則男副理事長は11月24日、大分県別府市に大石一彦名誉顧問を訪ね、新任理事を登用し理事会若返りを図るなどした今期体制やシステムの更新に取り組むなどの第5回通常総会事項を報告しました。大石名誉顧問は体調もよく、案内役をしてもらった島野敬前理事を含め4人で2時間ほどNGP協同組合の将来やリサイクル部品事業の今後について話をしました。

大石名誉顧問は、中国のことを気にしていました。NGP協同組合は一昨年末に寧夏

回族自治区政府と協力の覚え書を交わしていますが、こうした中国との関係について、「難しいことが多いけれど、これからは関心を持ってしっかり見て行く必要がある」などとの助言を頂きました。

将来の中国でのビジネス展開はもちろんのこと、国内でもNGP協同組合が拡大・成長を続けるためには、販売する部品の品質を高めることが大切になります。今期も研修などを通じて品質づくりを進めますが、「(品質を高めることを)まかせたよ」と言っていたように思います。



大石名誉顧問ご夫妻を囲んで

## NGP25周年のプロジェクトチーム発足



NGP協同組合は2011年に発足25周年を迎えます。そこで祝賀会の挙行に向けてプロジェクトチームを立ち上げました。プロジェクトの総責任者は杉之間大和総務広報委員長で、総務広報委員会のメンバーとともに九州地区の理事や理事経験者、若手メン

バーで構成されます。

NGP協同組合の前身である西日本グッドパーツは1985年4月にスタートしました。式典には草創期から苦労を重ねてこられた大石一彦名誉顧問に出席いただく予定で、2011年10月に開くNGP協同組合の第

7回通常総会に合わせて、九州・福岡地区で開催することを計画しています。式典準備が進むとともにプロジェクトメンバーからの協力要請があると思います。組合員の皆様の協力をよろしくお願いします。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209  
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201